

ストックボイス

『バロンズ拾い読み』2016年5月2日号

2016年5月2日（月）午後10時35分ごろから（スタジオ/電話）

エグゼトラスト株式会社

『バロンズ拾い読み』編集人

川田重信

インタビュー要旨

5. The Trader マクロ面でもミクロ面でも支援材料がなく下落
アップルの不振によるハイテク株の下落が重しとなる **【米国株式市場】**

丸山

川田さん、先週の主要指数はマイナスでした、週後半によく下げました。特にナスダック指数の下落率が大きかったですね。やはりこれはアップルの決算が大きく影響していますか？

川田

下げたのは木曜、金曜ですね。S&P500、ダウ、そして最近好調な小型株のラッセル2000の3指数はおおむね1.3%ぐらいの下落。しかしナスダック総合は2.67%、そしてナスダック100は3%近く下落しました。

悪材料はいろいろあります。先々週から続くハイテクの決算不調の流れの中で、先週はアップル(AAPL)が決算を発表。週間では11%以上(105.68→93.74ドル)も下げました。

これは3年以上前の2013年1月22日の週に12.8%も下げたのに次ぐ大きさです。当時は粗利益率の低下が嫌気されたようですねが、今回はiPhoneの売上が減って13年ぶりの減収が嫌気されました。

さらに木曜日朝発表の米国の第1四半期GDP成長率の速報値が前期比年率で+0.5%（予想は+0.7%）と弱かったこと。週末金曜は日銀が追加金融緩和を発表しなかったことで投資家の失望を誘ったことも影響したようです。





丸山

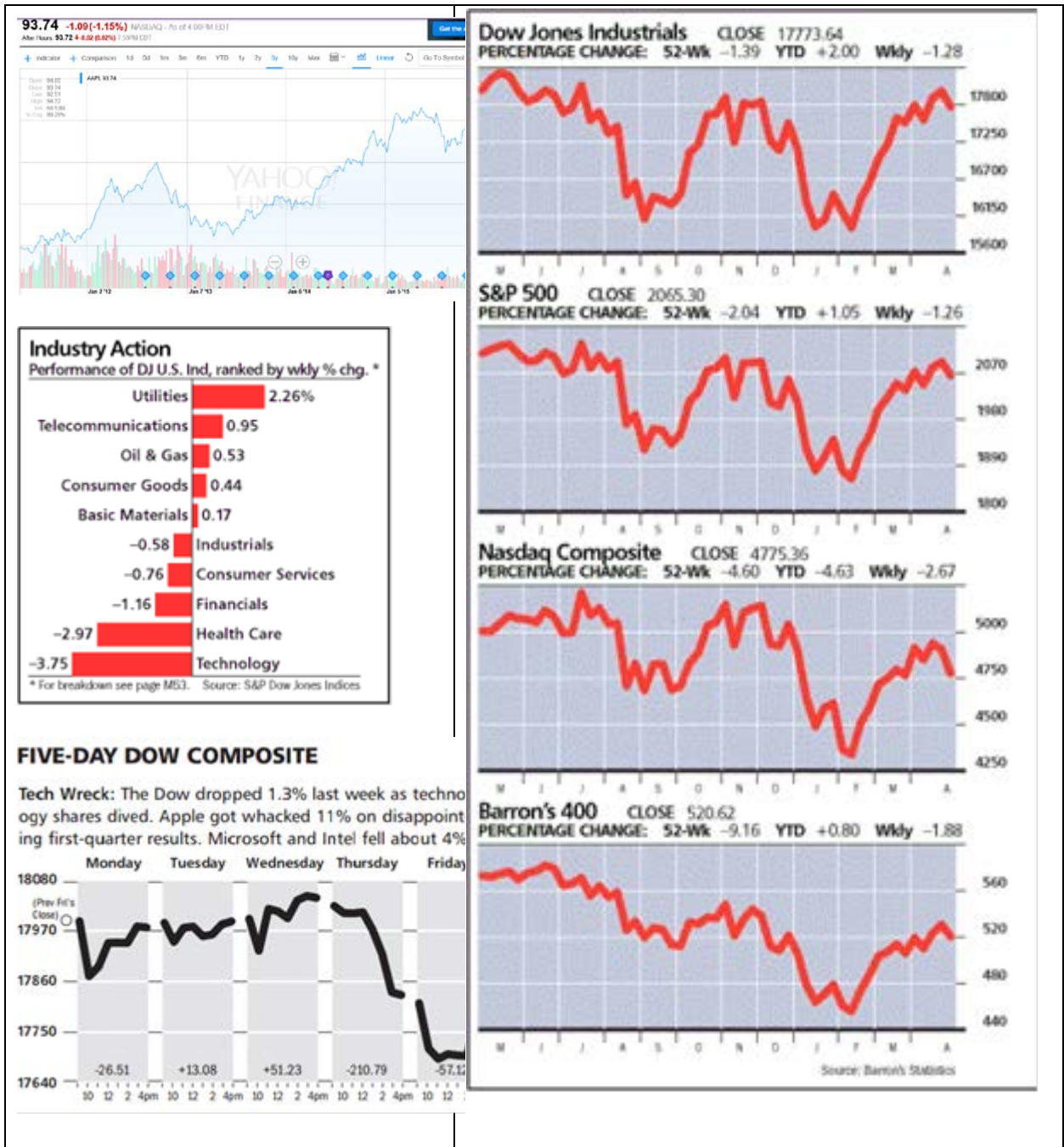
これで4月も終了し1年の3分の1が経過しました。年初来、株価の上下動は大きかったですが、現時点はS&P500とダウがなんとかプラスを維持していますね。

川田

そうですね、S&P500が1.05%でダウが2%の上昇です。ナスダック総合はマイナス4.63%でナスダック100はマイナス5.48%。ラッセル2000もマイナス0.4%程度。とにかくナスダックの下落が目立ちます。

4月25日～29日

Index	Daily	1 Week	1 Month	YTD	1 Year	3 Years
 Dow 30	-0.32%	-1.28%	0.50%	2.00%	-1.39%	20.90%
 S&P 500	-0.51%	-1.26%	0.27%	1.05%	-2.04%	30.49%
 Nasdaq	-0.62%	-2.67%	-1.94%	-4.63%	-4.60%	44.75%
 SmallCap 2000	-0.91%	-1.37%	1.63%	-0.13%	-7.76%	22.48%



6. Up & Down Wall Street 過去のデータで検証する「5月に売って立ち去れ」【コラム】
投資格付けが同等の社債よりもデフォルト率が低い地方債の意外なリスク要因

丸山

そして今週から5月相場です。「セル・イン・メイ、5月に売って立ち去れ」にあるように相場から遠ざかっていたほうがいいのでしょうか？

川田

このあたりのことを 6 番のコラムの記事で解説しています。記事では 1928 年から昨年 2015 年までの 88 年間、つまり 88 回の期間を検証しています。そしてこの格言は「ある程度、正しい」と言っています。

記事では年初から 4 か月間の S&P500 指数のパフォーマンスを 3 つの類型に分けて、その後の 8 か月がどうだったか、これを調べています。

1 つめのパターンは年初の 4 か月間で相場が 2%以上上がった年、これは 88 回のうち 45 回ありますから、全体の 5 割以上がこれに当たります。この場合、高い確率でその後も上がります。具体的には 5 月から 10 月までの半年の平均リターンは +2.99%。しかも 71% という高い確率でこの期間はプラス、つまり上がったということです。言い換えれば 5 月には売らなくても損はしなかった、といえる年です。

2 番目は年初から 2%以上下がった年が 27 回、3 割の年がそうです。これも結局は上がる確率が結構あります。つまりその後 5 月～10 月で平均 1.11%上がり、プラスリターンの確率も 53.6%。つまり損はしない、しかし上がるか下がるかは半々ということですね。

3 番目が年初からあまり変化しなかった今年のような年。これが 88 年間で 16 回ありますが、その場合のパフォーマンスが一番悪い。つまりこの後の 5 月～10 月は平均するとマイナス 0.21%。そしてその間にプラスになる確率は 56%です。したがってそれほど悪いわけでもないのですが、年初横這いと 5 月～10 月は儲けにくい、そういうことですね。

丸山

実際に毎年 11 月から翌年 4 月と 5 月から 10 月までの 2 つの期間を比べると、長期間ではそのパフォーマンスにはっきりと差があるのではないですか？

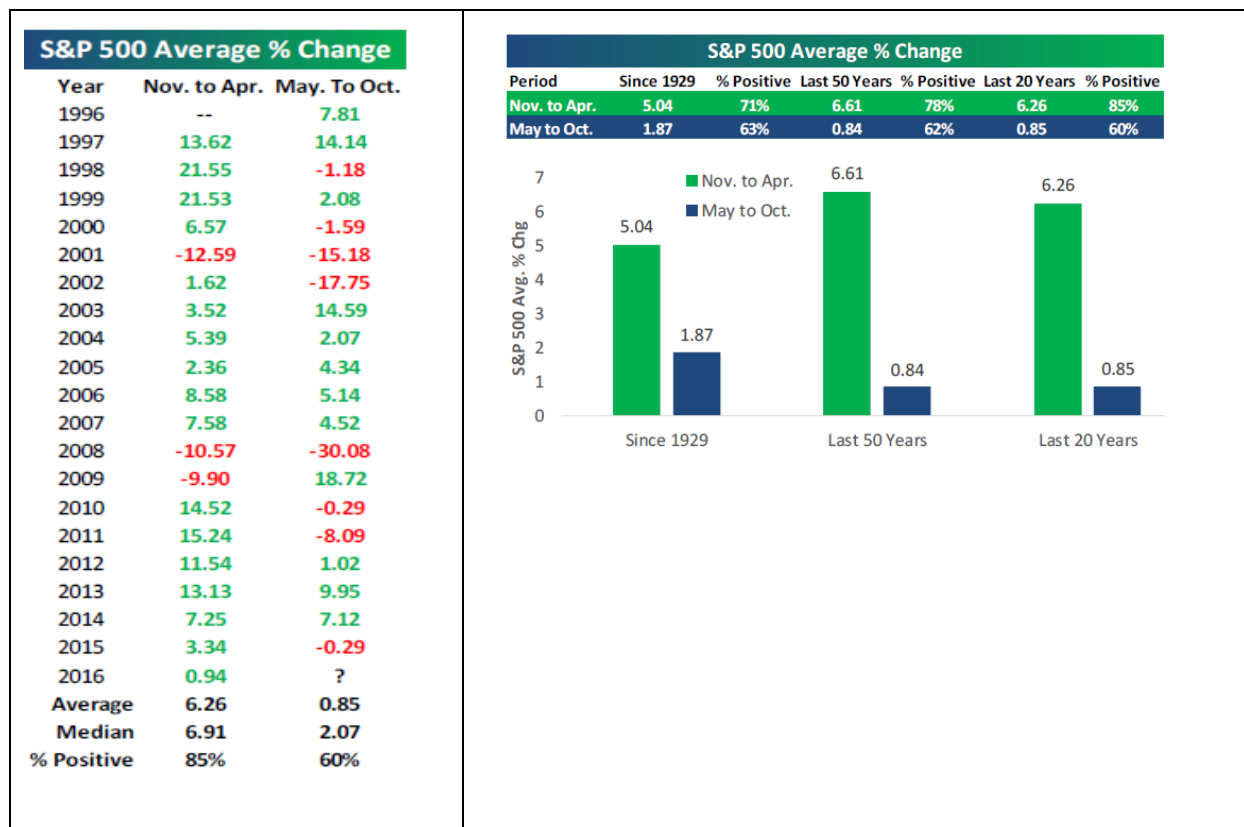
川田

そうですね、例えば、過去 86 年（1929 年以来）、過去 50 年、そして過去 20 年をとってもその差は明確。つまり、11 月～翌年 4 月は大体 6%前後上昇し、5 月～10 月の上昇率は 1%程度です。つまり同じ半年保有していてもそのパフォーマンスには 5%ぐらいの差があります。

しかし、5 月から 10 月の 6 か月で S&P500 が下落しているわけではありません。したがってこのデータを提供した調査会社は「売ってどこかへ行け」というよりは「持ったまま、どこかへ行っとけ」ぐらいのことだと。

ところで 4 月は月別で言えば一番パフォーマンスが期待できる月でした。そして 5 月は 1 年で 3 番目にパフォーマンスが悪い月という統計もあります。

これら季節的な傾向に加え今年は大統領選挙も絡んできます。したがって今年の夏は気怠（けだる）い夏ではなくクレージーな夏になる、これがウォール街の大方の見方です。



1. Barron's 500: AmerisourceBergen Ranks No. 1 企業ランキング 【バロンズ 500】 成功している北米企業 500 社ランキング

丸山

さて川田さん、今週はどんな記事をご紹介いただけますか？

川田

最初に、Barron's が選ぶ優良企業 500 社の紹介です。これは毎年この時期に企画されています。『バロンズ拾い読み』では 2011 年以来久々に取り上げてみました。

このリストは銘柄が上位にあるからと言って、ベンチマークを上回る株価パフォーマンスを予想するものではなく、あくまで過去数年間で経営資源有効に使用して優れた業績を上げている企業のリストという位置づけです。

ランキング指標として使うのは、CFROI（キャッシュ・フローに基づく投資収益率）や売上高成長率などを組み合わせです。

これらの指標で選定した銘柄の上位は例えば医薬品卸売のアメリカソースバーゲン（ABC）が 1 位、次がバイオ医薬品のギリアド・サイエンシズ（GILD）、3 位はたばこのアルトリア（MO）です。

この分析手法でリストアップすると、FANG と呼ばれ昨年投資家の人気をさらった人気銘柄の中ではフェイスブック（FB）は 10 位ですが、アマゾン（AMZN）は 158 位とかネットフリックス（NFLX）は 275 位とかになります。

さて、このリストの上位の銘柄ですが、ファンダメンタルズがしっかりしていますので、銘柄選びのスクリーニングには有用かもしれません。さらに株価を見てもかなり良好に推移しているものが多いです。

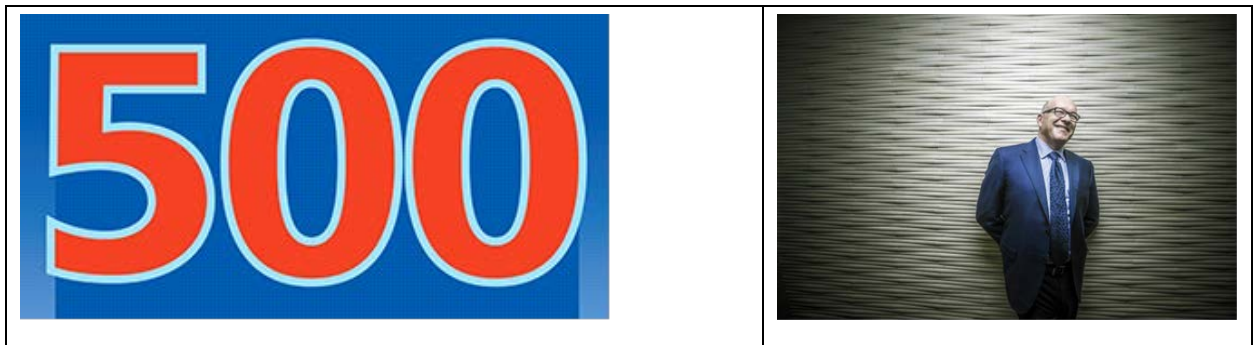
丸山

具体的にはどんな銘柄があるんですか？

川田

はい、記事で具体的に紙面を割いて紹介しているのは5銘柄あります。最初に申し上げた1位のアメリカソースバーゲン（ABC）。5位に入った同じくたばこのレイノルズ・アメリカン（RAI）、7位のバイオ医薬品大手のバイオジェン（BIIB）、そして9位の金融情報データのS&Pグローバル（SPGI、以前のマグロウヒルフィナンシャル）、そして10位に入ったフェイスブック（FB）です。

株価にこだわらずにこれが米国を代表する優良企業という500社がリストアップされていますので詳しくは『バロンズ拾い読み』をご覧ください。

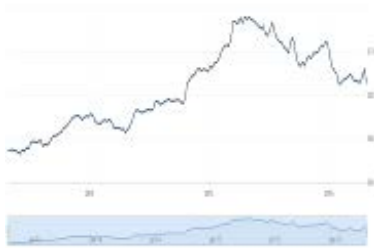


BARRON'S 500

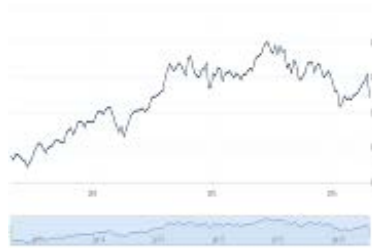
Drug distributor AmerisourceBergen's focus on growth helped it nab the top spot in our annual survey

RANK		Company/Ticker	CASH-FLOW BASED RETURN ON INVESTMENT		Sales Growth 2015*	GPA
2016	2015		3-Year Median	2015 vs. 3-Year Median		
1.	149.	AmerisourceBergen / ABC	A	A	A	4.00
2.	1.	Gilead Sciences / GILD	A	A	A	4.00
3.	196.	Altria Group / MO	A	A	A	4.00
4.	11.	Marriott International / MAR	A	A	A	4.00
5.	55.	Reynolds American / RAI	A	A	A	4.00
6.	N.R.	Wyndham Worldwide / WYN	A	A	A	4.00
7.	12.	Biogen / BIIB	A	A	A	4.00
8.	N.R.	Arthur J Gallagher / AJG	A	A	A	4.00
9.	N.R.	S&P Global ¹ / SPGI	A	A	B	3.67
10.	16.	Facebook / FB	B	A	A	3.67
11.	N.R.	Constellation Brands / STZ	A	A	B	3.67
12.	2.	CBRE Group / CBG	A	A	B	3.67
13.	27.	FNF Group / FNF	B	A	A	3.67
14.	29.	Accenture / ACN	A	A	B	3.67
15.	96.	Aetna / AET	A	A	B	3.67
16.	184.	General Dynamics / GD	A	A	B	3.67
17.	117.	Express Scripts Holding / ESRX	A	A	B	3.67
18.	67.	Home Depot / HD	B	A	A	3.67
19.	31.	Applied Materials / AMAT	B	A	A	3.67
20.	19.	Centene / CNC	B	A	A	3.67
21.	76.	O'Reilly Automotive / ORLY	B	A	A	3.67
22.	82.	Nike / NKE	B	A	A	3.67
23.	94.	Automatic Data Processing / ADP	A	B	A	3.67
24.	83.	Toronto-Dominion Bank / TD	A	B	A	3.67
25.	48.	Expedia / EXPE	A	B	A	3.67

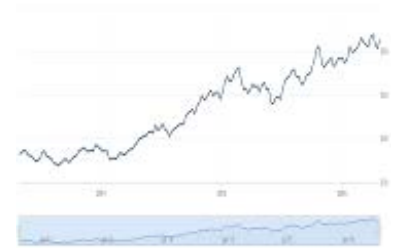
AmerisourceBergen Corp. (ABC)



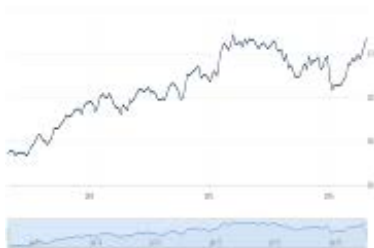
Gilead Sciences Inc. (GILD)



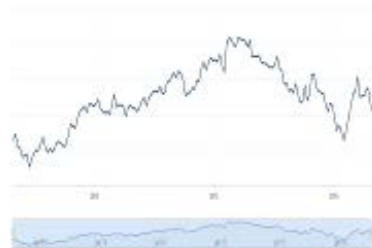
Altria Group Inc. (MO)



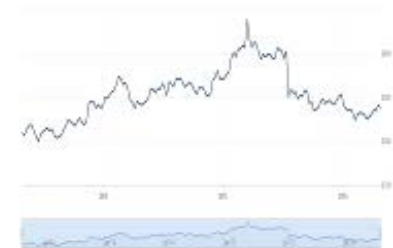
S&P Global Inc. (SPGI)



Wyndham Worldwide Corp. (WYN)



Biogen Inc. (BIIB)



4. Healthy Prognosis for Some Stocks: Drugs and Robots 医療関連【インタビュー】 オービメッド・アドバイザーズのサム・アイズリー氏に聞く

丸山

他にも面白そうな記事はありますか？

川田

医療関連投資に特化した投資会社オービメッド・アドバイザーズの CEO にインタビューした記事が面白いです。

この会社の社員の多くは医学や関連分野の博士号取得者、さらには実際に医薬品企業で重責を担っていた人たちが多くいるとのこと。つまり本当の意味での専門家集団のようです。

この記事を読むとヘルスケアセクターへの興味が随分刺激されます。日本の個人投資家の中には個別銘柄やファンドを通して投資された方も多いと思うのですが、単に目先の値動きに踊らされてはいけないというのがよくわかります。そうは言っても、いったん株価が下落するとその後ずっと戻ってこないものもありますから、あまり入れ込んでも結局儲からない。そういう経験はだれにもあるんじゃないですか？特にこの分野は専門的過ぎて判断ができない、そういう難しさはあります。

丸山

具体的な推奨銘柄はどんなものがありますか？

川田

ヘルスケアセクターは昨年 7 月から今年 2 月まで平均で 12% 下落したが、それまでの買われすぎの反動で、調整もまた行き過ぎということでした。

まず一押し銘柄というか、彼らのポートフォリオの保有銘柄の筆頭はブリストル・マイヤーズ・スクイブ(BMY)です。注目されているのはガン免疫療法で使われるオプジーボ、これは小野薬品工業(4528)が発見し、提携先のブリストル・マイヤーズ・スクイブ (BMY) が8割がた販売しています。小野薬品の株価は過去1年で2倍以上になっていますが、ブリストル・マイヤーズ・スクイブの株価の上昇率は12%です。

他にはアルツハイマー治療薬のソラネツマブでイーライ・リリー (LLY)、ロボット支援低侵襲手術用のインテュイティブ・サージカル(ISRG)、さらに病院経営のHCAホールディングス(HCA)あたりを選好しています。

丸山

しかし実際にファンダメンタルズや銘柄の中身が変わっていても市場環境の変化で株価は随分乱高下します。そうなる中身を正しく評価できない投資家は右往左往するだけ。これでも不安ではないですよ？

川田

そうですね、彼らだから我々に見えないものが見えるわけで、我々はどうしたらいいのでしょうかね？こういう場合はやはりファンドやETFが良いのではないですか？

丸山

川田さん、ありがとうございました。5月に入って世界中の株式市場が落ち着かない動きを示すかもしれません。ここはいままで以上にマーケットを注視したいですね。

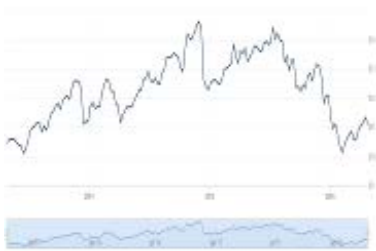


Isaly's Picks

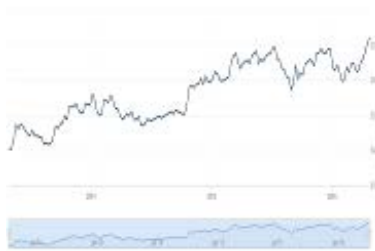
Company/ Ticker	Recent Price
Bristol-Myers Squibb / BMY	\$72.26
Ono Pharmaceutical / OPHLY	15.24
Vertex Pharmaceuticals / VRTX	86.75
Eli Lilly / LLY	76.46
Intuitive Surgical / ISRG	631.50
HCA Holdings / HCA	81.96

Source: Bloomberg

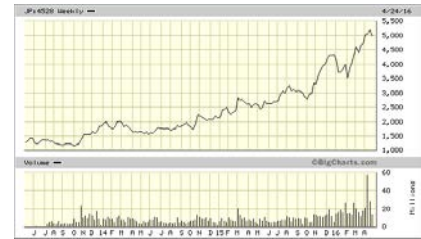
Eaton Vance Worldwide Health Sciences Fund:A (ETHSX)



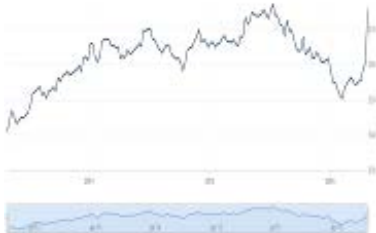
Bristol-Myers Squibb Co. (BMY)



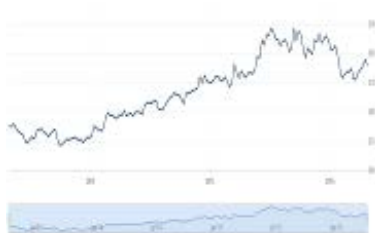
小野薬品工業 (JP:4528)



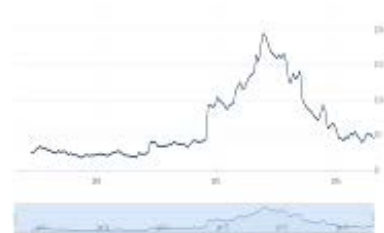
St. Jude Medical Inc. (STJ)



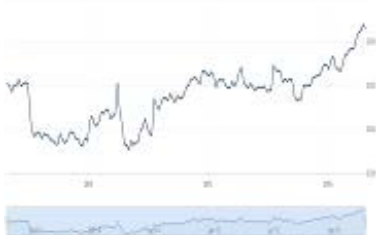
Eli Lilly & Co. (LLY)



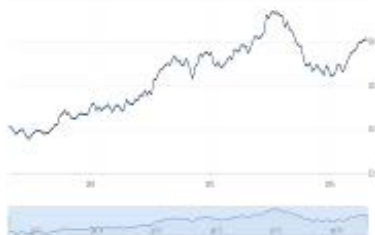
bluebird bio Inc. (BLUE)



Intuitive Surgical Inc. (ISRG)



HCA Holdings Inc. (HCA)



Express Scripts Holding Co. (ESRX)

